

オブジェ 丘陵と競演

呉羽の森の楽校

伐採した竹 有効活用



ナシ畑跡地に作った竹のオブジェを解説する南部さん（左）とメンバーら

呉羽丘陵の失われつつある里山の魅力を伝え、保全と活用について考える市民グループ「呉羽丘陵、森の楽校」は二十六日、富山市吉作のナシ畑跡地で、里山整備のため丘陵から切り出した竹で作ったオブジェのお披露目を開いた。オブジェは十二月末まで設置され、誰でも自由に見ることが出来る。

グループは散策や工作、アーチ型オブジェに仕上げた教室、音楽会など里山の魅力を伝える活動を通して、環境保全や人材育成に取り組んでいる。オブジェ制作は伐採した竹を有効に活用するとともに、より多くの人に里山の自然を身近に感じてもらうことを企画した。

メンバーで彫刻家の南部治夫さん（富山県富山市寺町）や木台がデザインし、十一月初旬から約二週間かけて制作。市民の協力などで集めた竹二百二本を使い、幅約二十五センチ、高さ約三メートル

高さ3メートルアーチ型

今年いっぱい展示

南部さんは「オブジェの背景に、丘陵ならではの美しい眺めが楽しめる。ぜひ多くの人に目に來てもらい、里山の自然に触れてほしい」と呼び掛けている。

問い合わせは呉羽丘陵、森の楽校事務局、電話076(4

29)5708。